

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

東京税理士会町田支部 支部長賞

『希望を生み出す税のちから』

町田市立真光寺中学校 1学年 松下 隆之丞

今年の春、大阪で開かれている万博のニュースを見て、ぼくはとてもびつくりしました。そこでは、人の細胞から作られた「i p s心臓」が展示されていたからです。その心臓は、赤い液体の中でドクンドクンと動いていて、まるで本物の心臓のようでした。人の体の中でなくても、自分の細胞からこうして臓器が作れるということに、とてもおどろきました。

i p s細胞というのは、いろいろな体の部分に変化することができる細胞のことで、自分の皮ふなどから作ることができるそうです。将来は、自分のi p s細胞から心臓や目、皮ふ、血液などを作って、けがや病気の治療に使えるようになると思います。

このニュースを見て、ぼくはすぐに、弟の事を思い浮かべました。ぼくの弟は生まれつき腎臓が小さくて働きが弱く、これから先もずっと病院での検査や治療が必要です。ひどくなると、腎臓の働きを助けるために、人工透析というつらい治療を何時間も受けなくてはなりません。透析は体に大きな負担がかかるそうです。そんな弟が、自分の細胞から作った

新しい腎臓を使って、元気に生活できる日が来たらいいなと、ぼくは心から願っています。

その時、もう一つのニュースをみて、ぼくはさらにおどろきました。なんと、このi p s細胞の研究には沢山の税金が使われているのです。国の研究所や大学にお金を出して、長い時間をかけて少しずつ進めているそうです。最初はどうもいかないうちにも多かったですですが、それでも研究を続けられたのは、税金が支えてくれていたからだと思いました。

ぼくはいままで、「税金は大人が払うお金」というくらいにしか思っていないませんでした。でも、弟の病気や未来の医療を支えてくれるものだとして、税金はとても大切なんだと思います。もし税金がなかったら、弟の病気を治すための研究は進まなかったかもしれないし、もっと困っている人たちも助けられなかったかもしれません。

ぼくはこれから、しっかり勉強して、仕事をして、ちゃんと税金を納められる大人になりたいです。自分のためだけでなく、家族やだれかの命や健康を支えるために、税金を払うことはとても大事なことでわかりました。税金があるからこそ、未来の医療や生活は良くなっていくのだと思います。

いつか、i p s細胞から腎臓が作られて、弟が元気に生活ができる日がくることを信じて、ぼくはがんばって生きていきたいです。